

自己点検・評価について（令和 7 年度）

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	各学部の必修科目であるため、原則として全ての学生が履修する必要がある。 令和 7 年度入学生について、文学部「情報処理 1」は入学者171名のうち169名が修得、国際コミュニケーション学部「情報・データ処理基礎」は入学者67名全員が修得しており、プログラムの修得状況は順調である。 なお、令和 6 年度入学生については、令和 7 年度中に全員が修得したため、修得率は100%となった。 今後もプログラムの履修・修得100%を目指し、オリエンテーション等での周知の徹底・履修指導などを行っていく。
学修成果	令和 7 年度の授業評価アンケートにおいて、満足度に関わる項目の各クラスの平均は5点中4.4点だった。比較的高い満足度を得ることができたと考えられる。今後も引き続き満足度の高い授業となるよう、教員間で連携しながら進めていく。 また、分野への学習意欲向上に関わる項目の平均も5点中3.3点と、基準となる 3 点以上の数値となった。今後も発展的な学習に繋がる機会を提供していく。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和 7 年度の授業評価アンケートにおいて、理解度に関わる項目の各クラスの平均は5点中4.3点となった。学生にとって理解度の高い授業を提供できていたと考えており、引き続き、学生の理解度の向上に努めていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートにおいて、「授業において工夫して欲しいこと」を学生がコメントできる欄を設けており、教員はコメントやアンケートの結果に対してフィードバックを行っている。今後もアンケート結果や学生からのコメントを参考にして授業を進めていく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	各学部の必修科目であるため、履修率は100%となった。 今後もプログラムの修得率が100%となることを目指し、オリエンテーション等での周知や履修指導を実施していく。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本学のキャリア支援センターと連携して、本プログラムを開始した令和 6 年度以降の修了者の進路等について把握するとともに、求人や情報交換のために来学される企業の採用担当者へのヒアリング等を実施することにより、企業での活躍状況・評価を把握することを目指す。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	卒業生の意見を聴く会や、求人や情報交換のために来学される企業の採用担当者へのヒアリング等を実施することにより、産業界が求める知識や技能について把握することを目指す。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
数理・データサイエンス・A Iを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「情報処理1」では、大学におけるアカデミックリテラシー教育の一環として、学習や研究に情報機器を利用する方法の実習を行なっている。その中で単に情報機器の操作だけでなく、利用している情報技術の背景について調べる課題を与えたり、また、生成AIを用いて実習の一部を自動化するなどの取り組みを取り入れている。 「情報・データ処理基礎」では、AIやICTをめぐる現在進行形の出来事や問題を紹介したり、履修生自ら調べてディスカッションする場を設けたりすることで、学ぶ楽しさや意義が実感できるような工夫をしている。データ取得から分析までをハンズオンで学び、知識とスキルの双方を取得できるような設計をとっている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「情報処理1」では、身近なテーマに関する実習を通じて、データを扱うこととその背景にある理論や考え方を合わせて理解できるように授業内容を工夫している。理論的背景についてもしくみを説明するだけでなく、それを応用した実習を合わせることで考え方を身近なものとしてとらえられるようにしている。 「情報・データ処理基礎」では、期末に授業改善のためのアンケートを実施し、学生の学習への取り組み状況を確認している。授業毎回の課題提出と添削を通して、学生の理解度を確認し、復習を交えながら授業を進めている。